

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090800170		
法人名	社会福祉法人ふくおか福祉サービス協会		
事業所名	ささえ手ホーム綾		
所在地	福岡県福岡市東区水谷1丁目30番22号 (電話) 092-674-3330		
自己評価作成日	平成 24 年 10 月 1 日	評価結果確定日	平成 24 年 12 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

その人らしく、美味しく食べて元気になり、喜怒哀楽も大切にして、安心して生活を送っていただけるよう心掛けています。
普段の生活をとおして、機能回復のためのリハビリのお手伝いができるよう、「できることは、自分で行う。」を念頭に、安全に注意しながら、介護する側、される側ではなく、入居者、スタッフが一緒に協力しながら、生活が行えるようにしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 24 年 10 月 18 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

丘陵地の住宅街に位置しており、周辺には散歩コースとして利用している公園等がある。事業所は、住宅街に違和感なくマッチしており、1階が地域交流スペース等事務所を兼ね、2・3階部分が事業所となっている。事業所全体が、開設1年目とは思えない程落ち着いており、訪問があっても普段どおりの生活を営んでいる様子が伺えた。事業所が目指す「利用者が楽しんで、ここに来てよかった」と思える介護を管理者と共に職員も一体となって目指している。法人が各種事業を展開しており、職員教育にも力を入れている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念、行動指針を職員の休憩室に掲示し、日常的に理念を意識して業務が実施できるようにしている。	法人理念はあるが事業所独自の理念はない。管理者は、職員に「共に生活している」「地域に出かける」という視点を常々伝えており、日々のケアの中で実践していくように努めている。	事業所の方向性は全職員間で共有されていると思われるが、その理念を明文化されることを希望したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スーパーへの買い物に行った際、なじみの店員を作ったり、近所の公園へ散歩に行った時、すれ違う近所の方に挨拶したりして、交流を図っている。	地域の廃品回収や幼稚園の運動会の見学に留まっており、ボランティアや地域行事への参加、事業所内の地域交流スペースの開放、クリスマス会への参加呼びかけ等を現在検討している。区の花火大会時に、地域住民に事業所の屋上を開放し、30名程の利用があった。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居に関する相談・見学以外の相談・見学も随時、受け付けており、認知症に関する説明を入れて説明するように心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施した際、事業所の活動報告を行い、事業所として地域交流をどのように実施していったらよいか、出席していただいている方に相談し、アドバイスをしてもらい、サービスにつなげている。	家族・民生委員・自治会長及び地域包括支援センター職員の参加を得て、2ヶ月に1回開催し、利用者やサービスの実際を報告している。地域行事や中学生との交流等の意見を受け、運営に反映していくことを検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議に出席してもらっている。また、運営に関する疑義については、市の担当者に確認を行い、適正に運営できるよう努めている。	通院介助に関する相談等、日頃から行政に対して相談を電話等で行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例が発生した場合、職員会議を実施して検討を行っている。また、日々の状況を把握し、定期的に見直しを実施している。職員会議時に実施している内部研修に、身体拘束についての項目を入れて、毎年、研修を実施するようにしている。	日中玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添い等を行っている。身体拘束に関するマニュアルはあり、全職員が法人の内部研修に参加しており、研修報告書もある。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員との面談やサービス内容を日常的に見ることにより、状況を把握し、虐待の防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職時、研修を実施している。また、内部研修で年1回、研修を実施するようにしている。	全職員が、法人内部の権利擁護研修を受講している。マニュアル、研修報告書もある。利用者及び家族に対して、契約時に権利擁護に関する制度の説明をしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご本人やご家族に対し、特に重要な事項については、繰り返し説明して理解していただくようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、苦情・相談窓口を説明及び、重要事項説明書に記載している。また、重要事項説明書等を入れたファイルを玄関に設置し、誰でも閲覧できるようにしている。	利用者に対して日頃の会話の中から要望や希望を聞き、外食や食事、おやつ等に反映している。家族同席の食事会を年数回開催し、他の家族との交流の機会を設けている。管理者及び職員は、家族が訪問された際には積極的に意見・要望を伺うようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、職員会議を実施して、サービス内容等について意見交換を行っている。また、職員との個別面談を実施したり、日常的にサービス内容を把握して、今後の対応等を協議している。	管理者は日頃から職員から意見を聞くように努めている。自己評価は管理者が作成して、ミーティングで職員の意見を集約した。地域との交流、ユニット間の交流等、職員から出された意見や要望の実現化を進めている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、意向調査を実施し、職員の意見等を把握するようにしている。また、法人が実施する年3回の研修、法人内の他部門が実施する内部研修、外部研修に交替で受講してもらうようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、特に制限は設けていない。職員の経験や得意分野等を活かせるよう配慮したり、レクリエーション等を職員に任せたりすることで、責任感ややりがいを持ってもらうようにしている。	職員の採用選考に制限は設けていない。資格取得の希望があれば、法人内で実施している資格取得講座の受講を支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で年1回、人権研修を実施し、職員に受講してもらっているが、啓発活動については、実施できていない。	全職員が法人主催の年3回2日間の研修（接遇、人権、認知症に関する内容）に参加している。テキスト、研修報告書がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的なサービスに対する取り組みを把握し、随時、アドバイスを行うように努めている。また、研修受講可能な経験年数に達した職員については、認知症介護実践者研修を受講してもらうようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所前は、他事業所に職員研修を受け入れてもらう等、交流を行っていたが、現在は、交流の機会が作れていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご家族より情報を頂き、日常の会話を通しながら、ご本人の思い等を受け止めるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を行って頂き、ご家族の不安、要望等を傾聴し、連絡・相談を行いながら、納得して頂いた上で、利用をすすめている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態、ご家族・ご本人の意向をふまえてサービス計画を作成し、ご家族、管理者、計画作成担当者、職員と連携を行い、対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状態に合わせ、その方ができる家事を一緒に行うようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族に近況報告を行うとともに、面会時には、最近の状況をお話するように努めている。また、食事会を企画し、ご家族をお誘いしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の意向等により配慮が必要な場合を除き、来訪・面会については、特に制限を設けずに受け入れるようにしている。	管理者及びケアマネージャーは、利用者及び家族から馴染みの人や場所等の把握し、職員に周知している。知人が面会に来訪されたり、お寺や以前居住していた地域にドライブに出かける、家族に電話をかける支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、食事、お茶の時間など、職員が間に入って歓談できるように配慮し、入居者が一人で過ごす時間が少ないよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時、相談等があれば、いつでも連絡をして頂きたい旨をお伝えしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中で、要望などを把握するよう努めている。職員会議や日々の申し送り等で、情報の共有を図っている。	職員は日々の関わりの中で、利用者の思いや希望、意向等の把握に努めている。お茶を点てていただく、お花を活けていただく、菜園に散水していただく等、利用者の思いに応じた支援を行っている。思いの把握が困難な場合は、家族等から意見、要望等を伺っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族より、生活状況や趣向などの情報を出来るだけ多く収集し、サービスに活かせるよう取り組んでいる。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り等により情報を共有し、職員全員が、同じ対応できるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向、ご家族の意向、ご本人の状態等を基に、ご家族との話し合いや職員会議等で協議を行い、介護計画に反映するよう努めている。	日々の声かけや関わりの中で、利用者の気持ちや希望、心身状態の変化を捉えていき、職員ミーティング等で共有している。月1回のユニット会議で、利用者の状態やスタッフからの意見、ケアの見直しなどを集約し、ケアプランに反映させている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に、日々の様子、状態などを記入し、職員会議等で話し合い、サービス手順の確認等を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向、ご家族の意向に添えるよう可能な限り、柔軟にサービスが行えるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の特性や状況に応じ、地域のスーパー等に積極的に出かけるように行っている。また、警察や消防は、必要に応じて、相談するようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による4週間に1回の往診を行ってもらい、必要に応じて、相談・連絡を行って、指示を仰いでいる。また、入居前に、かかりつけ医を希望された場合は、ご家族に協力してもらい、受診してもらっている。	施設協力医が毎月往診を行い健康管理に努めている。スタッフは利用者の健康状態を観察しており、状態の変動があれば細かく報告している。受診の必要があれば必要なデータを提供し、受診医療機関・協力医と緊密に連携を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に、必要に応じて、相談を行っている。現在、定期的な訪問看護の利用は実施していない。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、主治医に連絡を行い、主治医より入院先の医療機関に連絡を行ってもらって状況を説明してもらうようにしている。退院時は、ご家族、医療相談員等と相談しながら、退院後の生活がスムーズに行えるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について、ご本人、ご家族との話し合いが行えていない。	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の対応方針があり、明文化されている。利用者や家族の意向を大切にしながらその都度かかりつけ医、職員ミーティング等で話しあって合意を図り、全員で方針を共有している。	ご本人やご家族に説明する機会を設けることを期待したい。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、緊急時は管理者に連絡し、管理者が、かかりつけ医等に連絡、相談を行い、応急処置を行うなど対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年２回、避難訓練を実施することになっている。運営推進会議にて、隣人への協力依頼、地区の避難場所や避難経路の把握を行っている。また、日頃より緊急連絡網を見直すよう努めている。	施設開設時に総合防災訓練を実施しており、地域住民の参加を得ている。今後、年２回の防災訓練の計画を立てており、近隣住民参加を得ながら地域相互の協力体制を築いていけるよう計画している。	災害の発生時に備えて非常災害備品〔食料品・飲料水・介護用品・簡易トイレ・携帯ラジオ等〕の物品を整備して欲しい。
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への声掛けや対応が適切であるか、日常的に確認するようにしている。また、居室に入居する際は、ドアをノックし了解を得てから入室するなど、プライバシーへの配慮に努めている。	管理者及び職員は、日々の関わり合いの中で気付いたことがあればその都度話し合いを行っている。プライバシーへの配慮や人格を尊重したケア、職員間の会話についても職員同士で確認している。プライバシー保護や人権に関する勉強会を定期的に行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、入居者の意向等を引き出すように心掛けている。状況によっては、入居者と話をし、要望を確認し、入居者が自己決定できるよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等の共通時間以外は、入居者のペースに合わせて、散歩やレクリエーションの声掛けを行うようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容の利用や外出の際、個別のペースに合わせて、おしゃれが行えるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者全員の嗜好を把握するようにしている。また、入居者と一緒に食事のメニューを考えたり、一緒に準備や後片付けを行っている。時々、外食したり、お弁当を宅配してもらったり等、食事を楽しんで頂けるよう努めている。	利用者と散歩の際食材を買い求めたり、料理の下ごしらえや配膳などを一緒に行っている。職員は利用者と同じテーブルで同じ食事をとり、味付けやその日の出来事などを話題にし、楽しみながらも食事に集中できる様な配慮を行っている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に応じて、食形態を変えたり、声掛けをしながら、入居者のペースで食事を召し上がって頂くよう努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず、口腔ケアを実施している。また、状況に応じて、訪問歯科に往診してもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を確認できるよう記録を残し、入居者ごとの排泄パターンの把握に努めている。定期的な声掛け、誘導を行い、トイレにて排泄が行えるよう支援している。	日中のトイレ排泄は声かけ・誘導を中心に行い、夜間はその方の排泄パターンに応じてトイレ誘導を行い、少しでも自力排泄が維持できるように支援している。排泄チェック記録を活用し、段階に応じた介護用品の選定や健康状態の確認を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認できるよう記録を残し、排便状況を把握している。排便をうながすため、適度な運動、水分摂取、十分な食事を心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	一日おきに入浴を行っており、入浴時間の希望があれば、希望を優先させている。	入浴は利用者の希望に応じた体制をとっている。入浴を嫌がられる利用者にもあせらず声かけを行い、健康状態や精神状態を確認して判断している。介護者の落ち着いた対応や安心できる声かけで配慮しながら、入浴を楽しんでいただけるよう努めている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩、レクリエーション、適度な運動等を行い、夜間の安眠につながるよう努めている。入居者の体調や状況に応じて、日中でも休養時間を確保できるよう配慮している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとにファイルに保管している。薬の変更があれば、申し送りを行い、情報の共有を行っている。症状の変化に応じて、主治医や薬剤師に相談するようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝い、生け花、植木の手入れ等、入居者の状態に合わせて支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、外気浴など天候や入居者の状況に応じて支援を行っている。	施設は落ち着いた住宅街の中にあり、職員は外気浴・散歩の重要性をよく熟知しているため、ほぼ毎日散歩に出かけている。体調の悪い方を除いて外出に抵抗のある方でも声かけを行い配慮を忘れないようにしている。外食も3～4ヶ月に1回実施し、市内の名所・公園、ショッピングなどのバスハイクも定期的に行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持は行ってもらわないことにしているが、ご本人の意向、ご家族の意向により、金銭所持をして頂いている。お金を使うことについては、入居者個人で購入する機会がないため、支援を行っていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙を書かれる際の支援、ご家族から電話がかかってきた際の取り次ぎなど、入居者、ご家族の意向に添うよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、生垣や自然採光があり、風通しがよく、ゆったりとソファで過ごせるよう配慮している。また、一階には、和室や縁側を設置し、外気浴を楽しむことができるようにしている。	ゆったりとしたリビングには大きい窓ガラスからの採光で部屋が明るく開放的な空間になっている。玄関ホールとリビングの境に格子の仕切りを配置し、リビングホール・食堂はシックな装飾を施している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂、居室など入居者が好まれる場所で、テレビ観賞、会話などを行い過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に居室内の環境作りに関して相談を行っている。使い慣れた家具等を持ち込んで頂くこともできるようにしている。	居室は木目調で統一しており、落ち着いた空間を提供している。部屋には家族写真や本人の記念の品々を飾られており、一人ひとりの個性を重んじたその人らしい部屋作りを支援している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の動線上には、手すりの設置、トイレ・浴室には、呼び出しボタンを設置している。入居者の状態に応じて、対応できるよう環境整備を行い、自立支援に向けて取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
			○	③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念、行動指針を職員の休憩室に掲示し、日常的に理念を意識して業務が実施できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スーパーへの買い物に行った際、なじみの店員を作ったり、近所の公園へ散歩に行った時、すれ違う近所の方に挨拶したりして、交流を図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居に関する相談・見学以外の相談・見学も随時、受け付けており、認知症に関する説明を入れて説明するように心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施した際、事業所の活動報告を行い、事業所として地域交流をどのように実施していったらよいか、出席していただいている方に相談し、アドバイスをしてもらい、サービスにつなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議に出席してもらっている。また、運営に関する疑義については、市の担当者を確認を行い、適正に運営できるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例が発生した場合、職員会議を実施して検討を行っている。また、日々の状況を把握し、定期的に見直しを実施している。職員会議時に実施している内部研修に、身体拘束についての項目を入れて、毎年、研修を実施するようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員との面談やサービス内容を日常的に見ることにより、状況を把握し、虐待の防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職時、研修を実施している。また、内部研修で年1回、研修を実施するようにしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご本人やご家族に対し、特に重要な事項については、繰り返し説明して理解していただくようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、苦情・相談窓口を説明及び、重要事項説明書に記載している。また、重要事項説明書等を入れたファイルを玄関に設置し、誰でも閲覧できるようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、職員会議を実施して、サービス内容等について意見交換を行っている。また、職員との個別面談を実施したり、日常的にサービス内容を把握して、今後の対応等を協議している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、意向調査を実施し、職員の意見等を把握するようにしている。また、法人が実施する年3回の研修、法人内の他部門が実施する内部研修、外部研修に交替で受講してもらっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、特に制限は設けていない。職員の経験や得意分野等を活かせるよう配慮したり、レクリエーション等を職員に任せたりすることで、責任感ややりがいを持ってもらうようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で年1回、人権研修を実施し、職員に受講してもらっているが、啓発活動については、実施できていない。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的なサービスに対する取り組みを把握し、随時、アドバイスを行うように努めている。また、研修受講可能な経験年数に達した職員については、認知症介護実践者研修を受講してもらうようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所前は、他事業所に職員研修を受け入れてもらう等、交流を行っていたが、現在は、交流の機会が作れていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご家族より情報を頂き、日常の会話を通しながら、ご本人の思い等を受け止めるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を行って頂き、ご家族の不安、要望等を傾聴し、連絡・相談を行いながら、納得して頂いた上で、利用をすすめている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態、ご家族・ご本人の意向をふまえてサービス計画を作成し、ご家族、管理者、計画作成担当者、職員と連携を行い、対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状態に合わせ、その方ができる家事を一緒に行うようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族に近況報告を行うとともに、面会時には、最近の状況をお話するように努めている。また、食事会を企画し、ご家族をお誘いしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族の意向等により配慮が必要な場合を除き、来訪・面会については、特に制限を設けずに受け入れるようにしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、食事、お茶の時間など、職員が間に入って歓談できるように配慮し、入居者が一人で過ごす時間が少ないよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時、相談等があれば、いつでも連絡をして頂きたい旨をお伝えしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中で、要望などを把握するよう努めている。職員会議や日々の申し送り等で、情報の共有を図っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族より、生活状況や趣向などの情報を出来るだけ多く収集し、サービスに活かせるよう取り組んでいる。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り等により情報を共有し、職員全員が、同じ対応できるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向、ご家族の意向、ご本人の状態等を基に、ご家族との話し合いや職員会議等で協議を行い、介護計画に反映するよう努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に、日々の様子、状態などを記入し、職員会議等で話し合い、サービス手順の確認等を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向、ご家族の意向に添えるよう可能な限り、柔軟にサービスが行えるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の特性や状況に応じ、地域のスーパー等に積極的に出かけるように行っている。また、警察や消防は、必要に応じて、相談するようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による4週間に1回の往診を行ってもらい、必要に応じて、相談・連絡を行って、指示を仰いでいる。また、入居前に、かかりつけ医を希望された場合は、ご家族に協力してもらい、受診してもらっている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に、必要に応じて、相談を行っている。現在、定期的な訪問看護の利用は実施していない。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、主治医に連絡を行い、主治医より入院先の医療機関に連絡を行ってもらって状況を説明してもらうようにしている。退院時は、ご家族、医療相談員等と相談しながら、退院後の生活がスムーズに行えるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について、ご本人、ご家族との話し合いが行えていない。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、緊急時は管理者に連絡し、管理者が、かかりつけ医等に連絡、相談を行い、応急処置を行うなど対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施することになっている。運営推進会議にて、隣人への協力依頼、地区の避難場所や避難経路の把握を行っている。また、日頃より緊急連絡網を見直すよう努めている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への声掛けや対応が適切であるか、日常的に確認するようにしている。また、居室に入室する際は、ドアをノックし了解を得てから入室するなど、プライバシーへの配慮に努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、入居者の意向等を引き出すように心掛けている。状況によっては、入居者と話を行い、要望等を確認し、入居者が自己決定できるよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等の共通時間以外は、入居者のペースに合わせて、散歩やレクリエーションの声掛けを行うようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容の利用や外出の際、個別のペースに合わせて、おしゃれが行えるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者全員の嗜好を把握するようにしている。また、入居者と一緒に食事のメニューを考えたり、一緒に準備や後片付けを行っている。時々、外食したり、お弁当を宅配してもらったり等、食事を楽しんで頂けるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に応じて、食形態を変えたり、声掛けをしながら、入居者のペースで食事を召し上がって頂くよう努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず、口腔ケアを実施している。また、状況に応じて、訪問歯科に往診してもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を確認できるよう記録を残し、入居者ごとの排泄パターンの把握に努めている。定期的な声掛け、誘導を行い、トイレにて排泄が行えるよう支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認できるよう記録を残し、排便状況を把握している。排便をうながすため、適度な運動、水分摂取、十分な食事を心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一日おきに入浴を行っており、入浴時間の希望があれば、希望を優先させている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩、レクリエーション、適度な運動等を行い、夜間の安眠につながるよう努めている。入居者の体調や状況に応じて、日中でも休養時間を確保できるよう配慮している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとにファイルに保管している。薬の変更があれば、申し送りを行い、情報の共有を行っている。症状の変化に応じて、主治医や薬剤師に相談するようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝い、生け花、植木の手入れ等、入居者の状態に合わせて支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、外気浴など天候や入居者の状況に応じて支援を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持は行ってもらわないことにしているが、ご本人の意向、ご家族の意向により、金銭所持をして頂いている。お金を使うことについては、入居者個人で購入する機会がないため、支援を行っていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙を書かれる際の支援、ご家族から電話がかかってきた際の取り次ぎなど、入居者、ご家族の意向に添うよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、生垣や自然採光があり、風通しがよく、ゆったりとソファで過ごせるよう配慮している。また、一階には、和室や縁側を設置し、外気浴を楽しむことができるようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂、居室など入居者が好まれる場所で、テレビ観賞、会話などを行い過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に居室内の環境作りに関して相談を行っている。使い慣れた家具等を持ち込んで頂くこともできるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の動線上には、手すりの設置、トイレ・浴室には、呼び出しボタンを設置している。入居者の状態に応じて、対応できるよう環境整備を行い、自立支援に向けて取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない